

目的 科学技術が進歩して衣生活の面においても目的別に多様な被服を選択着装する様になり、最近では付加価値のついた高価格・高品種の被服がつけられる様になった。昨春から異常な購売力をみせたスーパー・サポート・ストッキング(以下S・S・S)は、医療用、美容、整容のために用いるという目的から、着装によつて「やせる効果」までも期待させるものとなり、消費者の購売欲を高める結果にもなった。本研究では、S・S・S着装効果の実態を明らかにするための実験を試みた。

方法 実験に供したS・S・Sは価格・仕様の異なり三種で、4名の被験者について着装実験によるその効果の検討を行った。検討項目は脚部における水平段階別周径・厚径・幅径、脚部容積、N・SとS・S・Sの着装時ののびの比較、サーモグラムによる脚部皮膚温、着装時の視覚的観察、着装感のアンケートである。

結果 ①高弾性体を軸とした張力を付加したS・S・Sは、脚部の運動にともなうずれが大きく着装時には脚部下方への力が強く働くために、足首にしわがよりやすい。②脚部における段階別糸使いが判明する他、周径、厚径、幅径とも編地の厚さが影響するので細く見えない。③足首とふくらはぎの中間において周径の減少が見られたが、上部周径と下部周径との差がサポート力によって更に大きくなりためより足の太さを強張して見せる。④脚部の容積は-4.17%~2.0%の増減があったが、被験者による個人差が大きかった。⑤S・S・S着装時直後の脚部皮膚温度はN・Sより低くなる。⑥着装感については、着装に時間がかかり日常の動作に支障がありはきにくいという回答が得られた。